

リン吸着薬(PB)の適正化を目指す～PB 減量フローチャートと患者教育の有用性～

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック 大村腎クリニック

○北田恭平 吉野秀章 中嶋幸海 小嶺真耶 河津多代 前川明洋 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司
船越 哲

【背景】

血液透析患者への PB は多量に処方されることが多く、その服薬アドヒアランスは患者にとって大きな負担となる。当院では、多職種でチームを結成し PB 調整フローチャート運用と患者教育を実施している。

【目的】

2021 年 1 月より PB 調整フローチャートの運用を行っているが、今回新たに食品のリン含有量についてまとめた当院独自の小冊子を同年 8 月に患者に配布しその有用性を検討した。

【対象】

当院外来血液透析患者のうち、2021 年 1 月時点で過去 3 回の平均血清リン値が適正範囲となった PB 内服患者 94 名(男性 58 名、女性 36 名、平均年齢 66.4±9.7 歳、平均透析歴 9.4±8.6 年)。

【方法】

PB 調整フローチャートに準じた PB 調整と小冊子を用いた患者教育を実施し、両者併用 5 か月後の PB 処方量と血清リン値の推移を比較した。

【結果】

小冊子配布後の PB 処方量は月平均一人当たり 127.2±102.2 錠から 103.1±101.1 錠へ有意差は認められなかったが、減少傾向であった。血清リン平均値は 5.2±1.0mg/dl から 5.3±1.0mg/dl で有意な変化は認められなかった。

【考察】

今回、PB 調整フローチャートと小冊子を用いた患者教育併用により血清リン値を適正範囲に保ちながら PB 処方量の減量が可能であったことは、PB 処方量調整の明確な基準化とリン含有食品に対する患者の意識変化が合致した結果であると推察された。